

G. 赤黄色土大群

有機物の蓄積が少なく、塩基飽和度が低く、風化の進んだ赤色または黄色の土壌である。本土は西南日本、南西諸島に広く分布する。

群としては、「粘土集積赤黄色土」と「風化変質赤黄色土」の2土壌群がある。



G
赤黄色土

福井県越前町の丘陵地

G1 粘土集積赤黄色土

「粘土集積層」をもつ赤黄色土。本土壤群は主に、本州の中位段丘から高位段丘上および南西諸島一帯の平坦で安定した地形面に分布する。畑、果樹園などに利用されている。

亜群には、「水田化」、「灰白化」、「疑似グライ化」、「湿性」、「腐植質」、「赤色」およびそれ以外の「普通」がある。

土性の違いによりそれぞれの亜群はさらに4土壌統群に区分する。

一口メモ:

粘土集積層とは浸透水の影響で長期間にわたって上部の粘土が下部へ移動した結果、上部より粘土含量が富化した層です。

G

赤黄色土



沖縄県 名護市 パイナップル園

G1 粘土集積赤黄色土

代表的な土壌断面
(赤色粘土集積赤黄色土亜群)



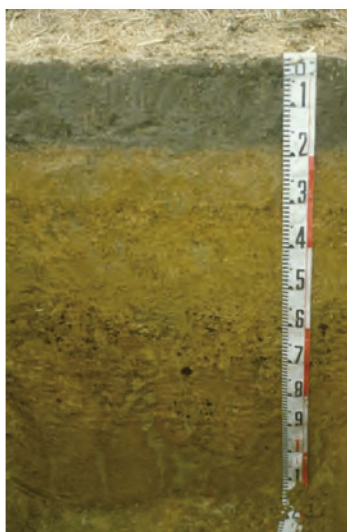
粘土が表層から移動集積した赤色の層

G
赤黄色土

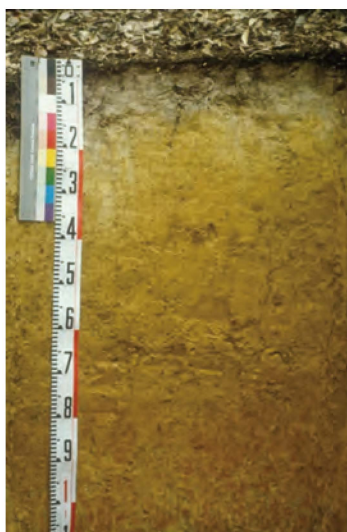
細粒質赤色粘土集積赤黄色土
沖縄県名護市 [モノリス8]

G1 粘土集積赤黄色土

様々な粘土集積赤黄色土群



細粒質水田化粘土集積赤黄色土
香川県綾南町(現綾川町) [モノリス48]



細粒質灰白化粘土集積赤黄色土
沖縄県名護市南明治山 [モノリス7]



細粒質疑似グライ化粘土集積赤黄色土
兵庫県加西市



細粒質普通粘土集積赤黄色土
静岡県金谷市 [モノリス70]

G
赤黄色土

G2 風化変質赤黄色土

「粘土集積層」をもたず、「風化変質層」をもつ赤黄色土。この土壌群は、主に、本州の中位段丘から高位段丘上および南西諸島一帯に分布する。

亜群には「水田化」、「灰白化」、「疑似グライ化」、「湿性」、「腐植質」、「赤色」、「ばん土質」およびそれ以外の「普通」がある。

土性の違いによりそれぞれの亜群はさらに4土壌統群に区分する。

一口メモ：

風化変質層とは風化を受けて色が変わったり、粘土が多くなったり、塊状の構造が出来たりした層です。

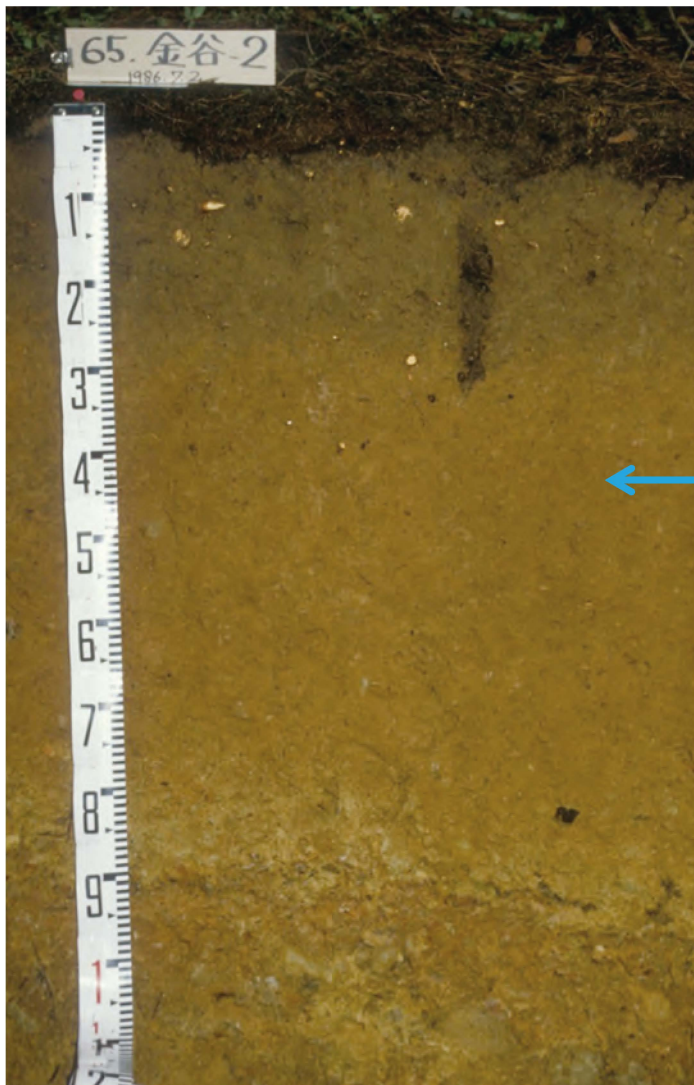


G
赤黄色土

静岡県浜名湖近くの傾斜地

G2 風化変質赤黄色土

代表的な土壌断面
(普通風化変質赤黄色土亜群)



粘土集積を持たない黄色の
風化変質層

細粒質普通風化変質赤黄色土
静岡県金谷町(現島田市) [モノリス71]

G
赤黄色土

G2 風化変質赤黄色土

様々な風化変質赤黄色土群



礫質腐植質風化変質赤黄色土
静岡県金谷市 [モノリス82]



細粒質普通風化変質赤黄色土
香川県善通寺市 [モノリス17]

国際的な土壌分類の現状

土壌学の進んだ国では自国の土壌に適した独自の土壌分類法が用いられています。一方で、世界の土壌を共通に分類するために、国連の食料農業機関 (FAO)・国際土壌科学会議・国際土壌照合情報センターの作成している世界土壌資源照合基準 (WRB) やアメリカ農務省の土壌分類法 (Soil Taxonomy) が、国際的な土壌分類法として広く使われています。包括的土壌分類第1次試案はこれら国際的な分類法との関係を考慮しているので、国際的な分類との間で良い対応がとれています。



沖縄県名護市

包括的土壌分類第1次試案:
粘土集積赤黄色土



タイ国チェンライ県

タイ国土壌分類:
Ban Chong 統

世界土壌資源照合基準
(WRB)
Acrisols

アメリカ農務省の土壌分類法
(Soil Taxonomy)
Ultisols

国ごとに土壌分類法は異なりますが、国際的な土壌分類に対応させると、2つの土壌は同じ種類の土壌に分類されることがわかります。